

稲・大豆作情報 (NO. 5)

1. 水稲作況情報田の生育概況 (7月28日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主 稈 出葉数	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.5株/㎡	本 年	80.7	320	11.3	41.3	7月4～5半旬の平均気温は平年並み(-0.3℃)で、日照時間は少なく(72%)、降水量は多い(193%) ◇平年と比べ、 草丈:「夢しずく」「ヒヨクモチ」はやや高く、「さがびより」は並み。 茎数:すべての品種で少ない。 主稈出葉数:すべての品種やや遅れている。 葉色:すべての品種やや濃い。 ★「夢しずく」は、幼穂長2.3mmとなっている。
		平 年	75.4	376	11.5	39.4	
		平年比	(107)	(85)	(-0.2)	(1.9)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 16.7株/㎡	本 年	65.8	365	10.8	40.6	
		平 年	67.6	487	11.8	40.3	
		平年比	(97)	(75)	(-1.0)	(0.3)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 19.6株/㎡	本 年	48.5	487	10.6	43.1	
		平 年 平	46.2	580	11.4	42.3	
		年 比	(105)	(84)	(-0.8)	(0.8)	

注1) 各品種 前作:麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H24~R3)の平均値

◆農業試験研究センター米づくり情報5号 7月29日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本/㎡	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
平 年	72.2	425	11.4	38.8			
平年比(差)	104	75	+0.4	+1.1			
ヒノヒカリ	本 年	65.9	441	11.3	40.6		
	平 年	66.6	548	11.5	39.9		
	平年比(差)	99	80	-0.2	+0.7		
6月20日	さがびより	本 年	65.2	422	11.5	40.3	
		平 年	64.8	554	11.6	40.0	
		平年比(差)	101	76	-0.1	+0.3	
	ヒヨクモチ	本 年	66.1	837	12.0	42.3	
		平 年	58.3	823	12.1	40.8	
		平年比(差)	113	102	-0.1	+1.5	

注1) 耕起概要等は前号参照。

○生育概況

「夢しずく」は平年並み、「さがびより」「ヒヨクモチ」は先週よりやや生育のスピードが遅れている。6月末~7月前半の高温で、有機物の分解が急速に進んだと考えられ、還元化により、先週からいずれの品種も茎数が平年より少ない状況が続いている。葉色は、今週から平年よりやや濃い状況である。

2. 水稲管理

**生育ステージに応じ、適正水管理を行う。
また穂肥についても診断基準に従い、時機を失ないように施用する。**

○水管理

- ・「夢しずく」は、すでに幼穂形成期をむかえているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を行い、湿润状態を保つ。
- ・中晩生種は、中干し時期となっている。

中干しを実施していない圃場は右表を参考に、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度まで実施する。高温・乾燥で予想以上に中干しが進むこともあるので、随時確認しながら行う。

品種	目標 穂数 本/㎡	有効茎数（中干し時期）	
		50株/坪 (15.2本/㎡)	60株/坪 (18.2本/㎡)
夢しずく	360	24本/株	20本/株
さがびより	370	25本/株	21本/株

- ・ただ、既に中干ししている圃場で、高温と乾燥で土壌が白乾状態となっている圃場が見受けられる。

このまま一気に水を溜めると根の活力が低下し、下葉枯れを助長するため、まず走り水を行い、その後は間断灌水とする。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

夢しずく【平坦部での穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1mm	2.0	12.5
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.5	9.4
	3.6以上	39以上	施用しない			
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.0	6.3
	3.6以上	39以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。
※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

ヒノヒカリ

- ・まもなく、幼穂形成期となり、**8月上旬頃**に穂肥施用になると思われる。

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	18.8
	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	3.0	18.8
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下
80cm以上	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下

さがびより

- ・8月中旬（お盆頃）に穂肥施用になると思われる。
- ・施用時期は幼穂長5～10mmが基準。5mmに達したのを確認し施用する。

★新基準 H29～★ さがびより診断基準

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
80cm以下	3.5以下	38以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.7	38～40	18日	10mm	2.0	12.5
	3.8	40～41	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	42以上	施用しない			
80cm以上	3.8以下	39以下	16～18日	10～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	40以上	施用しない			

さがびより旧診断基準 (※中山間地域参考)

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33～37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37～38	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	39以上	施用しない			
75～80cm	3.0以下	36以下	16～18日	10～15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

○病害虫情報(発生および防除)

- ・今年のトビイロウンカは、現在のところ6/25、7/8、7/19の飛来が確認されている。
- ・7/28調査において、平坦部の一部圃場でウンカ類の幼虫0.2頭/株が確認されている。
移植時期や品種によっては、より多く発生している可能性があり、さらに今年は高温少雨で経過しているため、トビイロウンカが急増する場合もある。
今後もそれぞれで発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- ・防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期
(各幼虫期の前半(図中★))である。
有効薬剤：スタークル・エクシード・エミリア など

発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、以下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にしてください。

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第3版、2022年7月20日作成)

防除する場合は湛水するとともに、薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。

- ・病害虫発生予察情報予報第4号(7/27発表)では、8月は以下の予報が出ているため、今後も発生状況に留意し、適切な管理を行う。

早植及び普通期水稻 やや多・・・ 紋枯病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ

3. 大豆管理 ～ 生育に応じた適正管理を ～

○生育状況

6月下旬～7月初旬播種 本葉1～5枚
7月上中旬播種 初生葉～本葉2葉
※同じ播種時期でも、土壌水分の有無や降雨の有無で生育は異なる。

○播種・再播種

まだ播種されていない、または再播種される圃場では土壌水分、天気を考慮した播種を行う。既に土壌が乾燥している場合は、降雨後や入水により一定の土壌水分とした後に播種する。

・播種量

時期	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)	施肥
7月26日～	27本	75×11×2	8.0	BB480を40kg/10a (窒素成分5kg/10a) 生育量確保のため行う

・播種深度

播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧をおこなう。

💡 順調な出芽となるよう土壌水分の確保ができる作業体系も！
播種後、晴天が続く予報の場合、気温が高い昼間の耕起を避け、夜間播種+鎮圧でできる限り土壌水分の蒸散が抑制できる作業を心がけ、出芽までの土壌水分の確保を行う。

○培土

- ・出芽した大豆は、以下の目安を参考に、雑草防除や生育確保のため、培土を実施する。

○実施時期の目安

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。
- 2回目：本葉4～5枚時に、初生葉(子葉の上の葉)まで隠れるようにおこなう。



1回目の培土時期の目安

※降雨が少なく、今年も“干ばつ”傾向で推移している。

培土は、大豆栽培のうえで重要な作業の一つであるが、気温が高い日中の作業は土壌水分の蒸散を助長するため、作業は夕方以降が望ましい。

令和4年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業振興センター

